



ニホンライチョウ



チョウゲンボウ



ヒビ



ホトトギス



ミズバショウ

ヒメウキシカ

大町市周辺の植物

※飼育舎の都合上、お客様から見えないうちで管理している動物もございます。

園内のご案内



大町市 大町山岳博物館
OMACHI ALPINE MUSEUM



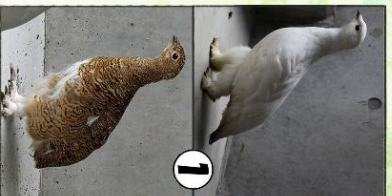
ハクビシン



ニホンカモシカ



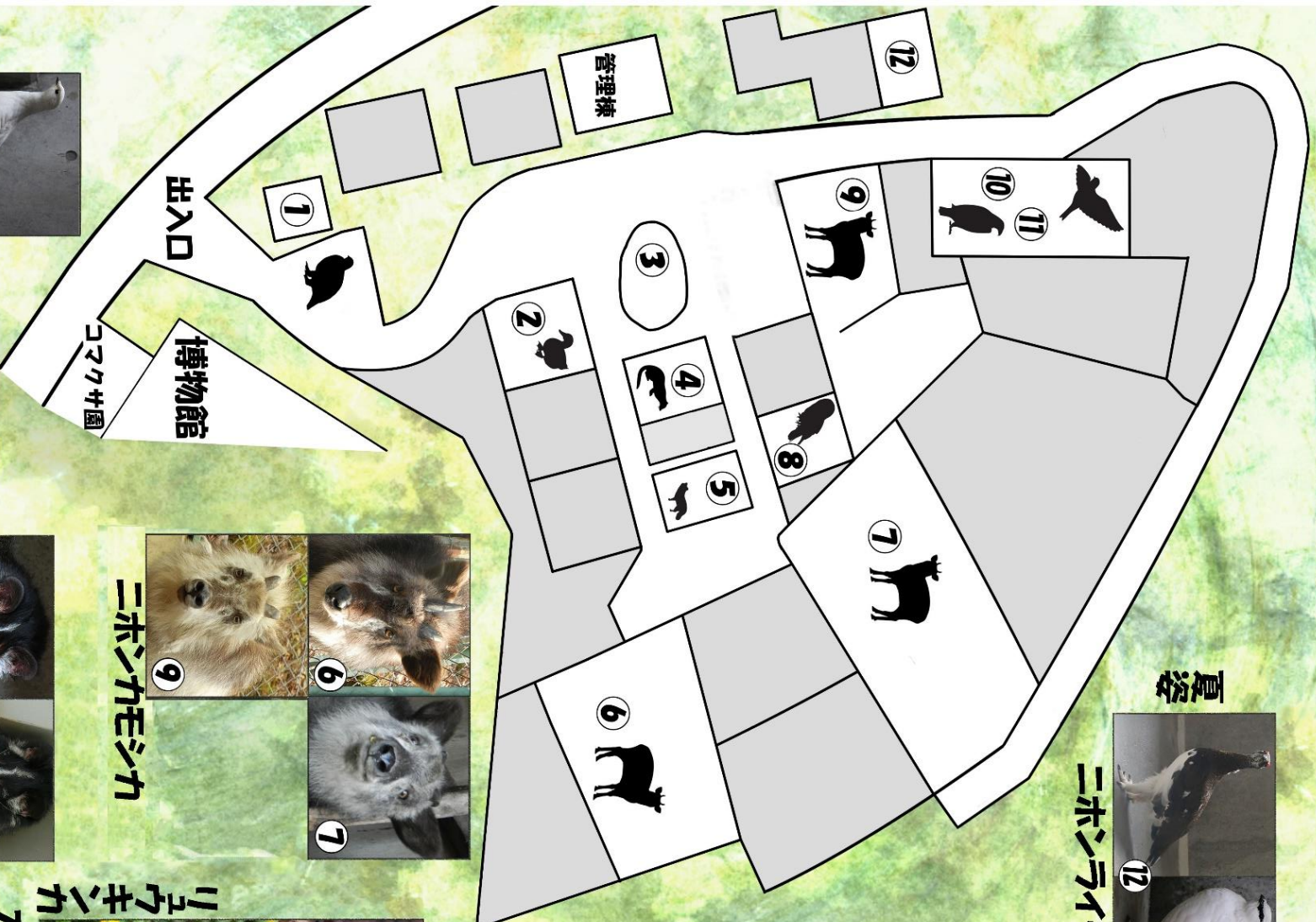
コマクサ



冬羽

夏羽

スバルバビル
ライチョウ



○入園時の注意

入園時、下記の点についてご注意ください。

【ペットは入れません】

犬などのペットを同伴しての入園はできません。ただし、認定済みアシスタント・ドッグ（盲導犬・聴導犬・介助犬）は、同伴が可能です。

【動植物を大切に】

飼育動物にエサをあげたり、おどろかせたり、こわがらせることはしないでください。また、園内の植物を抜き取ったり、折ったりしないでください。

もし身近でケガや病気などで弱っている野生動物をみつけたら…

- 動物の種類、大きさ、形や色、動きやケガなどの状況を確認します。
- 状況から保護の必要があるかを判断します。
(野鳥のヒナや幼獣の誤認保護に注意してください。とくに野鳥のヒナは、巣立ち直後はうまく飛ばず、巣の近くで親からエサをもらって飛び練習をします。練習中に地面に降りてしまうこともあります。普通のことなので保護の必要はありません。また、ヘビなどに食べられている鳥、タカなどに襲われている鳥も保護する必要はありません。それらを保護することは、自然の営みの妨げになります。)
- 保護が必要な場合は、都道府県の鳥獣保護担当部署に連絡をして、救護をお願いしましょう。
(野生鳥獣は、法律で許可無く捕獲したり飼育したりすることが禁止されています。)



貴重な植物を研究のために育てています

付属園では、高山植物や長野県で絶滅の危機にひんしている植物、大北地域の湿原でみられる植物などを、研究を目的に育てています。

その成果を企画展などで紹介しています。

○ササユリ（見ごろ：6月中旬。花には夜にスズメガが蜜を吸いに訪れます。）



○サクラソウ

（毎年5月中旬からJR信濃大町駅のまわりで移動展示をしています。）



付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にします。

【生体展示】

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。

【教育普及への活用】

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動を行います。

【傷病鳥獣の救護】

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をします。

【希少種の保護】

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努めます。

【施設整備の充実】

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進めます。

○開園時間 午前9時～午後5時（入園無料）

※ただし、動物の状態により公開の中止・時間の短縮の場合があります。

○休園日 年末年始(12月29日～1月3日)

このほか、積雪時等に園内の安全管理のため、臨時休園の場合あり

○施設の概要 敷地面積 39,875.92㎡

○所在地 〒398-0002 長野県大町市大町8056-1 市立大町山岳博物館 本館隣

○交通 JR信濃大町駅より 車で5分 徒歩25分 長野自動車道安曇野ICより40分

○問い合わせ

市立大町山岳博物館

電話 (0261) 22-0211

FAX (0261) 21-2133

E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp

動物取扱業者登録

氏名又は名称：大町市 牛越 徹、事業所の名称：市立大町山岳博物館、事業所の所在地：長野県大町市大町8056-1、動物取扱業者の種別：05 展示、登録番号：08000685号、登録年月日：平成19年3月23日、有効期限満日の末日：平成34年3月22日、動物取扱責任者：栗林勇太



市立大町山岳博物館 付属施設



ふ そ く え ん

付 属 園

(付属動植物園、コマクサ園)

“生きた学習・研究の場”として動植物を飼育栽培する付属園を屋外に併設しており、特別天然記念物のライチョウ・ニホンカモシカや高山植物のコマクサ（見頃は5月中旬～6月下旬）などを間近にご覧いただくことができます。



山 岳
文 化
都 市 宣 言
のまち大町市



しなのおおまちキャラクター
「おおまびょん」